

項 目 名	オムツはずし
表 題	利用前より、オムツ使用され、オムツからトイレへの移動までの関わり
施 設 名	老人保健施設『たかのご館』通所リハビリ

1 利用者の状況

【病名（既往症）及び病状】

年齢 80 歳・性別男・要介護度 3・老人性痴呆・高血圧症

2 施設内の生活における現状や課題

【身体的な状況】

●認知障害あり、一連の動作に介助が必要。ADL 一部介助

【痴呆の状況】

日常生活を行うための認知能力・伝達能力が乏しい。

3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

尿、便失禁あり、妻の判断でオムツを使用する。本人はプライド高く、精神的ストレスあり、介護に対する抵抗がみられたことにより、妻のストレスが増し悪循環を繰り返す。

4 ケアカンファレンスでの意見や協議内容

●排泄パターンをつかみ排泄動作を観察する。・妻へ排泄介助の指導を行う。

5 拘束廃止に取り組んだ過程や取り組み状況

排泄パターンがわかるまでは、オムツを使用しながら、トイレ誘導を行う。この時、トイレの場所を理解するよう声かけを行う。ある程度、排泄パターンが把握できたら、オムツからパンツに変えた。本人からのトイレの訴えは全くなく、職員が、本人の落ち着いた行動や表情をみて、その度トイレ誘導を行った。施設と自宅の（様子）情報交換を行いながら、妻のストレスの緩和と指導・助言を行った。

6 改善の成果

施設内での失禁は無くなり、本人のストレスも軽減され、気持ちに余裕ができたため表情が豊かになり、リハビリ活動等への意欲向上につながった。その事で本人も自信がつき行動もスムーズになった。妻も、介護負担とストレスが軽減され、考えにゆとりをもつことができ、夫に対しての関わりがうまくできるようになった。

7 担当職員の感想、意見

単に排泄動作の改善だけではなく、本人と妻との人間関係の改善もできた。形だけで単にオムツからパンツ（トイレ）へというのではなく、本人の気持ちや、家族の考えを理解することが、最も重要なことだと感じた。

日常生活における認知能力が乏しい人にとって安易に失禁したからとオムツ使用につなげてしまうことが、本人にとっては精神的拘束であったと思う。